

校舎リニューアル整備計画に 基づくバリアフリー化

神奈川県
小田原市

●小田原市の概要

- 面積 114.04km²
- 人口 198,525人 (2006.1.1現在)
- 世帯数 74,340世帯
- 人口密度 1,740人/km²
- 人口増加率 -0.17%
- 高齢者、障害者等の動向
 - ・ここ数年人口に対する高齢化率(60歳以上)は上昇しており、障害児者数も増加傾向にある。
- 学校数 小学校25校、中学校12校
- 担当課
 - ・小田原市教育委員会学校教育政策課
 - TEL (0465) 33-1677
 - URL <http://city.odawara.kanagawa.jp>



1 計画の特徴

- ① 新しい教育内容に対応したリニューアル計画
- ② 子どもたちやすべての人に優しい施設づくり
- ③ バリアフリー化の状況を勘案して整備優先度を決定

① 新しい教育内容に対応したリニューアル計画

小田原市の今後の小中学校校舎改修においては、子どもたちの安全を確保するとともに、財政状況を考慮し、既存施設の有効活用を図りながら、新しい教育内容に対応できる教育環境づくりを含めた質的改善の推進を計画的に進めていくこととしている。

② 子どもたちやすべての人に優しい施設づくり

子どもたちが安心して学べる、うるおいのある環境整備をはじめ、地域の人との交流のための、スポーツ施設、教室の開放など、すべての人に優

しく対応できる施設として、出入り口の段差の解消、手すり・スロープの設置、多機能トイレの設置等のバリアフリー対策への取組が必要としている。

○新しい教育内容に対応した整備(三の丸小学校)



③ バリアフリー化の状況を勘案して整備優先度を決定

校舎リニューアル整備を計画的に実施するために優先度ランク表を作成し、項目として老朽度、学習対応度のほか、バリアフリー化の状況についても重要な要素として取り入れている。

2 計画の背景

小田原市の公立学校校舎の耐震化率は、平成18年度末で小学校95%、中学校100%であり、耐震化はほぼ完了しているが、一方で老朽化および新たな教育内容へ対応した環境整備が遅れていた。

平成13年度から2か年にわたり、教育委員会、PTA、学校関係者の代表者および学校建築計画の専門家による検討会を設置し、「校舎リニューアル整備計画」について検討を行った。

検討結果をふまえ、白山中学校校舎リニューアルをモデルにバリアフリー化を含む、改修整備計画をすすめている。

また、小田原市では交通バリアフリー法に基づき、重点的かつ一体的に整備を推進すべき地区を定めた「小田原市交通バリアフリー基本構想」を策定し、小田原駅周辺地区など、だれもが安心・快適に公共交通機関を利用して移動のできるまちづくりを推進しており、学校も公共建物としての連携が図られている。

3 計画の概要

骨子

- 計画名 小田原市小中学校校舎リニューアル整備計画
- 策定者 小田原市
- 策定期間 平成16年3月
- 対象施設 小田原市立小・中学校（37校）
- 計画期間 平成17年度～25年度

計画の内容

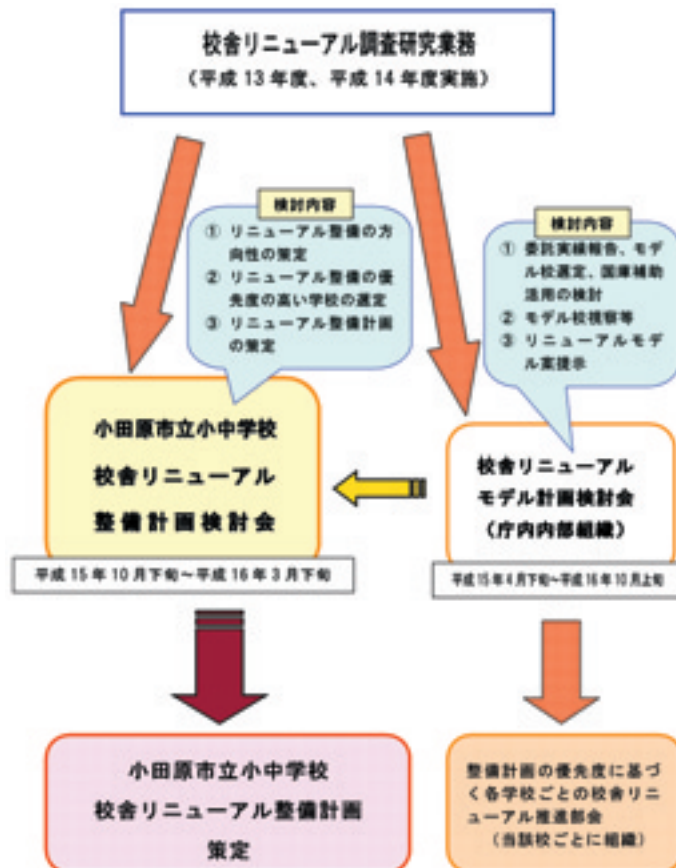
●リニューアル整備計画の方向性の策定

市民や学校代表者、建築計画の専門家等による「小田原市立小中学校校舎リニューアル整備計画検討会」を設置し、次のような視点で方向性を策定した。

<基本的な視点>

- ① 子どもたちが安心して学べる教育環境
- ② ゆとりとうるおいのある教育環境

○小田原市立小中学校校舎リニューアル整備計画模式図



- ③ 多様な学習内容に対応した教育環境
- ④ 地域の核としての教育環境

●リニューアル整備優先度ランク表

リニューアル整備の優先校を選定の参考とするために、優先度ランク表を作成しており、評価項目として老朽度、地域開放度やバリアフリー整備状況について点数による評価を行っている。

○リニューアル整備優先度ランク表

区 分		内 容	評 価	
老朽度	建設年度	昭和45年以前	A	
		昭和46年～昭和60年	B	
		昭和61年以降	C	
危険度	耐震補強	未完了	A	
		一部完了	B	
	外壁改修	未改修	A	
		一部改修済	B	
学習対応度	多目的ホール	なし	A	
		あり	B	
	少人数学習室	なし	A	
		あり	B	
	多目的教室	なし	A	
		あり	B	
利用度	児童・生徒数	600人超	A	
		600人～200人	B	
		200人未満	C	
		アンケート集計 バリアフリー環境	7点未満	A
地域開放度	プラザ	なし	A	
		あり	B	
	社会開放	なし	A	
		あり	B	
	公共度	地域内にある生涯学習の場として利用できる公共施設数（学校を除く）	1箇所もない	A
			1箇所～4箇所	B
5箇所以上ある			C	

■ 事業の優先順位

優先度ランク表の結果をもとに、人口構成等の地域性を考慮して市域を3つのブロックに区分し、今後10年間におけるリニューアル整備計画対象校を選定している。

さらに老朽度、新しい学習への対応が進んでいない学校を対象にコストを十分配慮しながら整備計画を策定しており、リニューアル計画には大規模なバリアフリー化整備を含むことを前提としている。

4 学校のバリアフリー化整備

■ 整備実績

●リニューアルモデル校の整備

リニューアル計画の整備内容を具体的に検証するために、白山中学校を第一期モデル校として、改修整備を実施している。

- 平成16年度 白山中学校東棟、中央棟校舎改修
- 平成17年度 " エレベータ設置
白山中学校校舎耐震補強（西棟）

○白山中学校多目的トイレ



●神奈川県条例による整備

新築、改築のみならず小規模トイレ改修についても平成8年に施行された「神奈川県福祉の街づくり条例」の整備指針に基づき整備している。

■ 整備の財源

リニューアル計画対象施設は、大規模改造・改築工事の国庫補助を活用しつつ、市の一般財源により整備を実施している。

■ 整備の評価等

白山中学校校舎リニューアルモデル事業評価委員会を設置し、整備内容、バリアフリー等について、生徒、保護者、地域住民へのアンケート調査を実施し、今後の整備に反映することとしている。

市民と共同で整備計画を作成することは、行政の考えと市民の意見、要望が把握できる効果がある。

5 検討組織

本計画は広く意見を収集するために次のようなメンバーによる検討会を設置した。

●小田原市立小中学校校舎

リニューアル整備計画検討会

小田原市自治会総連合理事
小田原市社会教育委員
小田原市 PTA 連絡協議会会長
小田原市校長会会長
小田原市教頭会会長
東京都立大学名誉教授
建築士
小田原市学校教育部長、次長

●今後の課題と研究会コメント

- 小田原市の公立学校は、他の自治体に比べ、耐震化が進んでおり、本計画では老朽化や新たな教育への対応を課題として、市民や専門家が参画した中期的なリニューアル整備を対象としている。
- しかし、現状としては厳しい財政状況を踏まえ、さらなるコスト意識の向上を図るとともに障害のある児童生徒の受け入れに伴う臨時の小規模なバリアフリー化を継続していくことが重要である。
- 白山中学校では不登校支援対策として一時待機する「ココロの部屋」や保健室とは別〇個別学習室（あやとり室）



に「個別学習室」を用意し、市のサポータースタッフや学生ボランティアの支援により成果をあげている。

